

平成20年度事業状況報告

(事業状況報告の内容)

1. 奨学金の給付

(1) 本年度の給付対象者及び給付額

大学院生 22名(うち新規 10名)、1人当り月額25,000円

(2) 事業の概要

① 奨学生の採用

本年度も前年同様、次の応募要項をもって募集を行ったところ、応募者は21名であった。選考委員会において、そのうち10名を奨学生として決定した。

募集要領 応募資格 日本国内の建築及びその関連学科を専攻する大学院修士課程第1学年在学者

採用人数 10名

奨学金 大学院修士課程終了までの2年間

提出書類 在学証明書、成績証明書、建築教官の推薦状、大学院における研究テーマの概要等

審査 選考委員会において決定した。

② 奨学金の給付

本年度の奨学生は、前年度採用分12名を加え、総数22名である。

奨学金は、月額25,000円を6カ月分まとめて、6月と12月に支給した。

2007年度奨学生 (12名) 別紙の通り

2008年度奨学生 (10名) 別紙の通り

2. 奨学生セミナーの開催

(1) 奨学生の指導のための研修会である。

開催 年2回(春、冬)

一回あたり参加人数 21名

一回あたり諸費用 約450,000円

(2) 事業の概要

元コクヨデザイン研究所長岸本章弘氏と建築家横溝真氏を講師に迎え、新旧奨学生参加のもとにセミナーを開催した。

奨学生には、今後の学習、研究面において参考になったようで好評であった。

開催日 平成20. 7. 10 元コクヨデザイン研究所長 岸本章弘氏

平成20. 12. 15 建築家 横溝真氏

3. 研究助成金の支給

平成20年度は、下記の通り5件に対して総額2,900,000円の研究助成金を支給した。

- ① 平成20年7月18日 吉岡文庫シンクタンク・リサーチャ研究(渡辺直哉、皆川拓、山村健、南後由和の各研究員に各500,000円)
2,000,000円
- ② 平成21年1月30日 岸本章弘(オフィスからワークスケープへの概念変化の動向に関する研究) 500,000円
- ③ 平成21年2月24日 阿部仁史(都市の分析を通じた都市デザイン手法の研究) 100,000円
- ④ 平成21年2月24日 国立大学法人東京工業大学(安田幸一教授、教育・学術研究) 200,000円
- ⑤ 平成21年3月19日 国立大学法人東京工業大学(塚本由晴准教授、教育・学術研究) 100,000円

4. 優秀作品の表彰及び講演会

(1) 新建築住宅設計競技2008の開催

当財団及び新建築社共同主催による本年度新建築住宅設計競技は、下記課題で行われた。

課題 Four Square House Design Problem

ジョン・ヘイダックが考え出したナイン・スクエア・グリット・デザイン・プロブレム。ヘイダック自身のこの問題に対する回答は私たちを楽しませ、そして多くのことを教えてくれた。私は彼への思い出に今回のプロポーザルを捧げたいと思う。

私はこの課題を「フォー・スクエア・ハウス・デザイン・プロブレム」と名付けた。

36m×36mのグリット^①を持つ架空の田園都市に、自由な形状の住宅を4つデザインすることがテーマである。制約は、個々の住宅面積が162㎡を超過しないこと。また各住居がガレージと庭を持つこと。すなわち9m四方のマス目を使って「技術と自然」を組み合わせることである。こうした設定が要求するのは、方位、隣接性、プライバシー、施工、空間の構造など、昨今論じられることの少ない類型論の概念に纏わる一連の指標への考察である。自明のことだが、ひとつのブロックからより広いエリアへ拡張することや、素

材について、また新たな類型が出現した結果として現れる理想の田園都市のキャラクターについても考慮してほしい。

(ラファエル・モネオ)

締切日 2008年11月28日
審査委員 ラファエル・モネオ
入選発表、総評 月刊「新建築」誌2009年3月号

本設計競技において、176点、そのうち海外からは22ヶ国から88点の応募作品が寄せられた。そのうちの入賞作品に対して表彰を行った。

入賞者：

1等(賞金 75万円)

Heike Hanada (ドイツ)

2等(賞金 50万円)

CJLim. Martin Tang. Tom Hillier (イギリス)

3等(賞金 25万円)

喜多啓 (日本)

佳作(5組、賞金なし)

西尾聡志 水上哲也 (日本)

綾城圭 藤沢達郎 (日本)

池田理恵 (日本)

Thomas Tsang (アメリカ)

Mateusz Adamczyk. Michal Palej (ポーランド)

(2) 新建築賞の表彰及び受賞者による講演会

(第24回新建築賞の表彰)

吉岡賞は『新建築住宅特集』の新人賞として、住宅作品を通して建築設計の新たな展開に大きな可能性を感じさせる新人の奨励のために、その作品の設計者を表彰するもので、年1回の選考が行われてきました。これは『新建築』誌を創刊した故・吉岡保五郎の業績を顕彰して設けられ、故人が設立した当財団の主催により開催されてきました。

吉岡保五郎没後35年が経過した今年度より、「新人賞」「登竜門」という賞の性格をさらに強化し充実したものとすべく、その名称を「新建築賞」に変更しました。新名称の第1回となる今回の審査では、『新建築住宅特集』2007年1月号から12月号までの間に掲載された作品に加え、『新建築』誌に掲載された住宅に関連した作品を対象としました。

審査は、各審査員からあらかじめ推薦作品を提示していただき、座談会形式の最終審査を経て選出されました。座談会では、時代を反映した個別化するテーマと、その先につながるものが焦点となりました。下記の2作

品が入選と決定しました。審査座談会と受賞作品は『新建築住宅特集』2008年3月号に掲載されている。

受賞作品 乾久美子「アパートメント I」
長谷川豪「桜台の住宅」

(第24回新建築賞受賞者による講演会)

第24回新建築賞受賞者による講演会を表彰式と合わせて平成20年4月11日にリビングデザインセンターOZONEにて開催しました。

平成20年4月11日 会場：リビングデザインセンターOZONE

入場者数：60名

講師 (1) 乾久美子 受賞作品「アパートメント I」

(2) 長谷川豪 受賞作品「桜台の住宅」

協力 (株)新建築社

5. 講演会の実施

(1) 新建築講演会

当財団が主催する第58回目の新建築講演会は、建築家で慶応義塾大学理工学部教授の隈研吾氏を講師に迎え、シンガポール国立大学建築学科50周年を記念してシンガポール大学において開催した。

日時：平成20年8月29日(金)

場所：Lecture Rooms LR424 & LR426
Level4, SDE3 (School of Design and Environment)
National University of Singapore

定員：600名(入場無料、申込み制・抽選)

講師：隈研吾氏

後援：株式会社新建築社、株式会社エー・アンド・ユー

特別協賛：Erco Lighting Pte., Ltd.

(2) アイカ現代建築セミナー

当財団が後援をしているアイカ現代建築セミナーは建築文化の向上と発展のために毎年開催されている。本年度は下記の通り開催された。

第57回アイカ現代建築セミナー

講師：ラファエル・モネオ(建築家、スペイン) × 槇文彦

テーマ：デザインプロセス

① 東京会場

日次：平成20年7月1日(火)

場所：東京都文京区春日1-16-21 文京シビックホール

定員：1,802名(入場無料・申込み制)

② 大阪会場

日時：平成20年7月2日(水)

場所：大阪府中央区大手前4-1-20 NHK大阪ホール

定員：1,409名(入場無料・申込み制)